

50「千葉県を歩く1 鴨川へ(2)」

■10月7日(月)

あれから4ヶ月も経ってしまった。今年は梅雨入りが早かったこと、その後猛暑の夏となり、とても何キロも歩けない。9月になってもなかなか涼しくならず台風も来た。今回は一泊しなければならないということもあり、結局出発は10月7日になってしまったのである。

姉ヶ崎駅から、8時47分発君津行きで木更津下車。木更津から9時17分発の久留里線で終点の上総亀山まで行く。上総亀山へはバスで馬來田まで行き、そこから久留里線で行く方法もあるが、接続が悪く1時間待ちになってしまうのでJRを使うルートにした。

10時30分上総亀山駅をスタート。天気が心配だ。駅に降りたときは雲が厚く垂れ込め、今にも降りそうな感じだった。すぐ亀山湖に出て国道465号線に入る。このあたりは雨が降ってあがったようだ。道路が濡れている。とにかく雨にならないことを祈る。亀山湖から流れ出す川に懸かる橋をいくつも渡る。三石山への登山口がある。この辺りはなだらかな丘陵地帯で、緩いアップダウンの道がずっと続く。橋を渡る時に見える川の両側はいろいろな種類の木が茂り、紅葉の季節はさぞ綺麗だろう。

折木沢地区、滝原地区と歩き、時々小櫃川と交差しながら橋を渡る。「新釜生橋」という橋を渡ると蔵玉(くらだま)地区だ。この辺りで約1時間経過。

星福山圓盛院という寺があり、木造虚空蔵菩薩立像があるらしい。見たい気持ちもあったが雨が心配なので先を急ぐ。バス停があったので見ると、君津市の運営しているコミュニティバスが運行されていることがわかった。しかし、残念ながらH24年9月から運行休止になっていた。

しばらく行くと黄和田畑という地区に入る。すぐに君津市指定文化財「木造十三仏像」という仏像群が見られた。高さ50cmほどの小さい像が夥しい



水抜きパイプに大きな雨カエルが

数密集して置かれ、私にはどう見ても木造には見えず石造に見えた。

案内板には次のようであった。

『十三仏とは、死者の追善法要を修める際、十三の仏菩薩を信仰するものです。』

これは初七日「不動明王」、二七日「釈迦如来」、三七日「文殊菩薩」、四七日「普賢菩薩」、五七日「地藏菩薩」、六七日「弥勒菩薩」、七七日「薬師如来」、百ヶ日「観世音菩薩」、一周忌「勢至菩薩」、三回忌「阿弥陀如来」の諸尊が十仏であり、さらに七回忌



黄和田畑地区に入る

「阿閼如来」、十三回忌「大日如来」、三十三回忌「虚空蔵菩薩」を加えて十三仏が成立します。

法量はいずれも台座を含め、高さ約五十センチ～六十センチ、像高約三十センチ～四十センチ、膝張り約二十二センチ～二十五センチに仕上げられています。造像年代は、江戸時代中期以降と推定され、

小櫃川上流域における民間信仰を知る上で、極めて貴重な文化遺産であります。』

黄和田畑地区は全体的に平坦な高台で小規模な集落になっている。

黄和田畑を過ぎると国道465号と県道81号の分岐点となった。県道に入り南に向かって歩くとすぐに七里川温泉に着いた。ここは以前自転車で養老溪谷方面から来たことがある。温泉に浸かり昼食を食べ、1時間ほど休憩して久留里方面に抜けたのだ。



到着したのがちょうど12時だったので昼食にする。蕎麦はなく炉端焼きのみ。地鶏の串焼き、イカの丸焼きと焼きおにぎりを注文。自分で焼いて好みに味付けして食べる。焼きたてのアツアツを食べ満腹になった。普段昼食はあまり食べないが、遠距離を歩く時はエネルギー切れで低血糖になり、歩けなくなることがあるのでしっかり食べなくてははいけない。

月曜日だというのに、奥の座敷では男女10名ほどの中年のグループが昼間からカラオケで盛り上がっていた。年代は私と同じくらいだろうか。珍しく「東京カチート」を聴いた。そんな曲があることすらすっかり忘れていた。坂道を歩いてきたせいか背中汗びしょりだったが、今日は温泉には入らない。今日泊まる宿に温泉があるからだ。1時間弱昼食休憩して12時50分出発。



天気予報どおり、午後になると太陽が出てきた。こうなると長袖では暑い。汗がどんどん出てくる。

30分ほど歩くと道路は小櫃川と並行し七里川溪谷に入る。川のせせらぎ、セミの鳴き声とともに木陰の細道を歩く。木漏れ陽の道をゆっくりと歩くのはとても贅沢なことだ。道幅はとても狭くなり、車の離合は決められた場所ではできない。車は5分に1台ほどしか来ないが、車が近づくと端に避けて注意して歩く。このままの調子で行くと目的地に早く着きすぎてしまいそうだ。どこかで休憩してい



こう思うが適当な場所が見つからない。気温が上がって汗が止まらないのでペースを落として歩く。それでも14時少し前には今日の目的地「白岩館」に着いてしまった。あまりにも早く着いてしまったが、宿の人は親切に迎えてくれた。

一休みしてどうしようかと考えていると、宿の主人がここから2kmほどのところに「不動の滝」があるので行ってみてはと勧めてくれた。2kmなら20～25分、そこから清澄寺も500mほどだということなので行ってみることにした。どうせ明日通るのだから明日見ることでもできるが、まだ時間もあるし体力にも余裕があるので出掛けることにした。

ところが歩いてみると、2kmと言われた滝は結構遠かったのである。白岩館は君津市と鴨川市の市境にあり鴨川市に入ったすぐのところにある。ここから鴨川市の運営するコミュニティバスが安房鴨川や安房天津まで通っている。このバス停の4つ目「西野」という停留所のところで既に25分経っていた。「つつじ直売所」という看板があり、そこで植木の手入れをしていた人に訊くと“不動の滝はまだここから1kmはありますよ”とのこと。ここからまだ10分ということは、帰りを含めるとまだ45分歩かなくてはならないことになる。明日のことを考えるとここで止めて引き返したほうがよい。

結局不動の滝は見ずに帰ってきたのである。これで今日は余分に5km歩いた。上総亀山からここ(鴨川市四方木)まで約12kmなので、今日は17kmほど歩いたことになる。

宿自慢の露天風呂に入り今日の汗を流す。昼間から露天風呂とは天国だ！

こうしてみると、今回の行程は1泊2日で充分だったわけだ。山道なので少しきついかもしれないが、頑張れば1日で亀山から安房天津まで歩き通せたかもしれない。マアあまり無理するのはよくないし、余裕を持って歩くのが楽しいのだから1泊2日で正解だと思う。

今日の宿泊客は私と他にもう一組だけのようだ。宿は夫婦と手伝い数名でやっていて、とても人懐こく親切にもてなしてくれた。夕食の時、そばに来ていろいろ話をして楽しいひと時を過ごした。

■10月8日(火)

朝8時半に宿を出発。今日は朝から天気良く、太陽は時々雲に隠れるといった状況。10分も歩くともう汗がでてくる。昨日不動の滝を見ようとして行ってみたのだが、宿のご主人から教えてもらった距離よりかなり遠く結局途中で諦めてしまった。

宿から35分歩いて不動の滝入り口に到着。そこからアップダウンのきつい山道を1.2kmほど歩きやっと滝に着いた。滝に至る道は狭くて車は通れないので歩いて行くしかない。車で来るとこの距離を歩くのは億劫だろう。規模は小さいが、均整の取れた美しい滝がひっそりと迎えてくれた。

涼しい木陰でしばらく休憩して本道に戻る。

この場所から清澄寺へは約2km、歩いて20分ほどの距離だ。ずっと上り坂で真正面から日光が当たり汗が止まらない。しばらく行き四方木(よもぎ)峠を過ぎると、やっと下り坂になり歩きが楽になった。緩い下り坂を行くと10時15分ころ清澄寺入口に着いた。寺へはさらに上り坂の専用道路を1kmほど歩く。



不動の滝

清澄寺は日蓮宗の大本山である。総本山は身延山久遠寺で、ここはいくつかある大本山の1つだ。



「南無高祖日蓮大菩薩」の幟

経)を釈迦の正しい教えとする日蓮宗を立教開宗した。日蓮上人ゆかりのこの寺は昭和24年日蓮宗に改宗し今日に至る。

展望台に上がると太平洋が見え、湾のカーブが美しい。ここまで来れば目的地はもうすぐだ。

この場所には「極真空手発祥の地」の碑が立てられていた。歩き出す前に、おにぎりとお餅を食った。宿のおばさんが途中食べ物を売っている店がないからと作ってくれたものだ。

11時ころ寺を出発し本道に入る。



展望台からは太平洋が見える

た。この辺りまで来ると足が棒のようになっていて、惰性で歩いているようだ。清澄寺からはかなり高度が下がっている。徐々に住宅が増えて完全に市街に入る。

12時15分、勝浦、館山に通じる国道128号線と交叉するポイントを過ぎ、しばらく進み突き当りを左折するとJR安房天津駅に着いた。12時20分到着。

駅の周りは賑やかな商店街を予想していたが全く外れ、本当に何も無いのどかな駅だった。宿を出るときは、元気があれば安房鴨川まで歩こうと思っていた。しかしもう足が棒で、これ以上歩く意欲が失せてしまいここを終着点とした。

今日は閑散としているが、団体バスで参拝者が来るのだそうだ。階段を上ると、左右に「南無高祖日蓮大菩薩」の幟が立てられている。正面の寺には虚空蔵菩薩が祀られ、左には祖師堂がある。

清澄寺は「千光山 清澄寺」といい、宝亀2年(771年)天台宗の寺として開創された。安房の地に生まれた日蓮上人は、天福元年(1,233年)12歳で寺に入り道善法師に師事、悟りの道に入った。諸国を歩き各宗の奥儀を学び、建長5年(1,253年)32歳で帰山し法華経(妙法蓮華



千光山 清澄寺

ここからはずっと下り坂で景色を楽しむ余裕も出てきた。陽の光は強いが、秋の爽やかな風に吹かれて楽しい歩きだった。

歩いていると、昆虫や他の生物の方が圧倒的に多いことに気付く。トンボ、ハチ、アリ、小さいチョウ、足元から飛び立つバッタは、止まっているときは茶色の目立たない保護色なのに、飛ぶときに広げる羽の模様が何故あれほど綺麗なのだろうか？

ずっと単調な道を下って行くと市街地の入り口付近で坂が急になり、やがて平坦な直線道路となった。

成し遂げた満足感はあるが、あまりにもひっそりとした駅前広場だったので少し物足りない。もう少し華やいだ街並みだったらもっと良かった。

今日歩いた距離は18kmくらいだろう。これで、延べ5日間かけて東京湾側から太平洋側まで房総半島を斜めに歩き通したことになる。全行程はほぼ75kmだ。

人気のない小さな待合室で、500CCペットボトルの水を一気に飲み干した。ここからは、あと一駅安房鴨川まで行き内房線で館山経由、あるいは外房線で蘇我を経由して帰ることもできる。距離的には外房線経由の方が近いし列車の接続もいい。次の列車は12時57分発の千葉行き、約30分後である。ここは、時々路線バスが駅前に来るが客は一人もいない。眠っているような駅前なのだ。

列車は外房の海岸線に沿って安房小湊、勝浦、御宿、上総一ノ宮と滑るように進んで行く。茂原まで来るとやっと街らしい景色になり、うとうとするうちに蘇我に着いた。呆気ないほどの1時間40分だった。何回かに分けて長い距離を歩くのは計画する面白さがあるし、見慣れた家の周辺を歩くより興味が湧きずっとやり甲斐があり楽しい。（2013年10月20日）

